

人物紹介 (坂本龍馬記念館)

はじめまして、こんにちは

今年の4月にわが龍馬記念館では人事異動がありました。副館長の坂本さんと学芸専門員の有安さんが退任されて、新しく副館長には柴 栄樹 (しば ひでき)さんが、そして主任として前田 由紀枝 (まえだ ゆきえ)さんが就任されました。

当倶楽部でもお二人に植田がインタビューしてきました。

副館長 柴 栄樹 (しば ひでき)さん



高知県出身で、前任は県民文化ホールで勤務、今年の3月に県を退職されて当館の副館長に就任された。龍馬に対してはそれほどオタクではないそうです。館に来ての印象は「いいですね、太平洋を眺めていると雄大な気分になります。沢山のお客さまに館に来ていただいて、そして見ていただいて、知っていただきたい。それが私の思いです。」と語られた。

ゴールデンウィークには通常の倍近くお客様が入館され、大半が県外の龍馬ファンということで少し驚かれたそうです。趣味はゴルフで休日はもっぱらゴルフだそうです。腕は90前後と

いうから上手い部類に入る。土佐だからお酒の量はと聞くと「人並み、普通」だそうです。

館に対する思いは、「館がオープンして13年経ちます。最近ぼちぼち修復箇所も出てきたので、これから台風など強い雨風に対して大丈夫なのか、県の財政も厳しく、その辺が心配です。」と率直な意見を言われました。さすが仕事柄館のハード面を心配されていました。インタビューの印象としては県庁出身だけに「まじめ 誠実」という感じでした。

主任 前田 由紀枝 (まえだ ゆきえ)さん

高知市出身で、前任は中学校の国語の先生でしたが、専門性よりも何かのセンスを見込まれて就任させてもらったようです。と、笑っていました。

龍馬に対する思いを聞くと、「龍馬が生まれた周辺で育った関係で、子供のころから龍馬のことについていると刷り込まれていたような気がします。先生や両親からよく龍馬に関する事などを教えてもらった記憶があるような気がします。」

客観的立場から見ると、龍馬は土佐人そのもので、例えば北海道への新天地を求めてロマンを描くことなどは、海洋民族の血を感じつつ世界に飛び出していくような気質といった土佐人のDNAを持っているように思います。時代・人脈・環境がマッチしたからこそ龍馬は大政奉還などの大事業をなしえたのではないのでしょうか。」と語られました。

そして、龍馬は坂本家の懐深い環境のすごさの中で育っており、龍馬という個人を超えた人類の夢、ロマンを感じるそうです。だから龍馬という人物を個人で見ないほうが良いのではないかと話されたことが印象に残りました。非常に気さくで飾り気がなく「そのまま」という思いがしました。最後に人間に興味がある、といわれたことも、なにか龍馬に通ずるものを感じたインタビューでした。

最後に時間をとっていただいたお二人に感謝です。

